



情熱ユニバーシティ!

出会いと発想が街を生き生きと

vol. 8
身延山大学

仏像修復を通し 日本の伝統的な技術を 継承していく学生たち



地元山梨から被災地や
ラオスの世界遺産まで
幅広いフィールドで活躍

身延山大学東洋文化研究所仏像制作修復室は、仏像の制作や修復などを行う研究施設です。学生たちは、通常の授業を受けた後、仏像制作修復室に集い、教員や先輩の指導の下、仏像の修復などに携わり、実践的な技術を身に付けています。

県内の修復作業としては、七面山敬慎院(身延町)の摩尼殿や、光雲寺(山梨市)の阿弥陀如来坐像など貴重な文化財に携わっています。

また、「仏教を学んでいる学生だからこそできる社会貢献を行い、人々の心の支え





**活動の全てが
自分の成長に
つながっていると
感じます**

仏教学科4年
岡村 達人さん

世界遺産修復で他国の文化に触れたり、卒業生の方々の仕事をお手伝いさせてもらったり、そんな活動の全てが自分の技術と内面の成長につながっていると感じています。仏像制作に興味があってこの大学を選びましたが、今では仏教について、もっと勉強したいと思うようになりました。



**得難い経験には
たくさんの感動が
あります**

仏教学科3年
池田 優季名さん

オープンキャンパスでノミ入れをさせてもらった悲母観音像に、入学後彩色し、岩手県陸前高田市のお寺に納めました。地元の皆さんに感謝されたことを今でも鮮明に覚えています。将来の目標は学芸員ですが、修復にも携わっていきたいと思っています。



**世の中に
必要とされる
存在となり
未来に技術を
継承してほしい**

仏教学科
柳本 伊佐雄 教授

文化財の研究は進められていても、修復など技術面の蓄積はおろそかにされがちです。仏像制作という、人の心の支えとなる学びができるのは全国的にも例がないことです。

技術の習得は決して簡単ではありません。しかし日々の積み重ねを大切に、諦めずに粘り強く取り組めばできることを知ってほしい。そして、知識、技術の習得にとどまらず、人間としても大きく成長し、エキスパートになってほしいと願っています。

【問い合わせ先】

身延山大学
TEL 0556-62-0107(代表) FAX 0556-62-0727

身延山大学



「なりたいたい」と、東日本大震災の被災地に悲母観音像を建立。現在は二体目として慈母観音像の制作に取り組んでいます。さらに、2001年からラオスの世界遺産の町ルアンパンの仏像修復プロジェクトも企画から現地での作業や運営まで学生が主体となり行っています。寺院調査や仏像基本台帳作成などの基礎情報の収集から始まったプロジェクトは、先輩から後輩に代々受け継がれています。現在では、仏像修復活動は拡大し、現地の修復技術者の育成にまで進展を遂げているそうです。

仏像や文化財の修復ができる技術者が減少しているという今日、「日本の伝統的な技術を身に付け、世界中から必要とされるようになりたい」と、学生たちは日々、研さんを積んでいます。

